

## 適正な成績評価を実施するための方策

弘前大学21世紀教育センター  
センター長 大関 邦夫

弘前大学では、平成9年に教養部を廃止し、教養教育の充実を図るため、文系・理系学部を擁する総合大学としての特徴を生かし、全学担当制で「共通教育」を実施してきたが、平成14年度には、「何のために学ぶのか」という教育目的を明確にした「21世紀教育」（教養教育）を導入した。

### 1) 授業運営・担当評価

21世紀教育は、学ぶ側の視点に立った教育課程を目指した結果、多彩な科目の開設や少人数教育の充実など、幅広い内容の教育課程となったが、本学の教員構成比からみて文系及び一部理系教員の担当時間数が増加することが避けられず、一部授業担当者は過重負担となった。特に、言語コミュニケーション実習及びスポーツ・体育実技担当者は、他の授業担当者と比較して2～4倍の授業を担当する必要性が生じた。また、各授業科目の科目主任は、開講計画の設定及び授業内容の点検・改善の業務について責任を負っているため、科目主任に対する評価が必要となった。

このため、21世紀教育の授業運営への積極的な関与を促進するとともに、授業担当の濃淡に伴う不公平感を払拭し、21世紀教育を円滑に展開することを主旨として、「授業運営・担当評価」を導入した。具体的には、i) 科目主任、ii) 基準時間を超える授業担当者、iii) カリキュラム開発者を対象者として、研究費の傾斜配分による評価を実施している。

### 2) 成績評価の方法と基準

平成7年度に導入された「共通教育」では、成績評価の方法と基準が定められていなかったため、同一授業科目であるにもかかわらず成績評価の結果に著しい差異が見られることがあった。このため、21世紀教育

では、科目区分ごとに「成績評価の方法と基準」を定め、成績評価を試行している。これにより、i) 成績評価の基準を科目区分ごとに平準化し、ii) 同一科目内における成績評価の基準を共通化し、iii) 公平な評価を受けていると学生が実感できる成績評価のシステムを構築することが可能になった。

具体的には、評価視点の複数化（平常・中間・期末評価）、履修取りやめ制度、授業への出席確認、評価の標準的な平均点の設定等の工夫を凝らし、第三者から見ても公平な評価であることを目指している。また、試験答案・レポートなどの返却も奨励している。

### 3) 点検・評価

システム全体の改善を不断に図るため、各学期ごとに「学生アンケート」を実施するとともに、授業担当教員及び科目主任に対して「授業実施報告書」の提出を求めている。

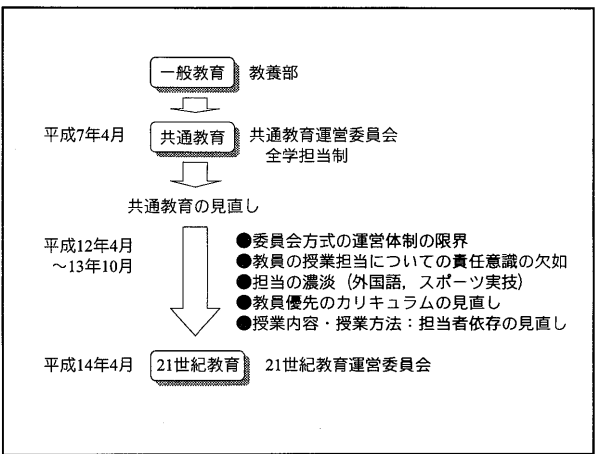
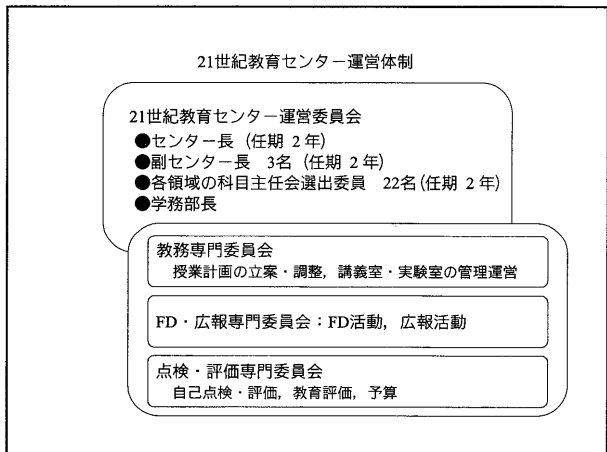
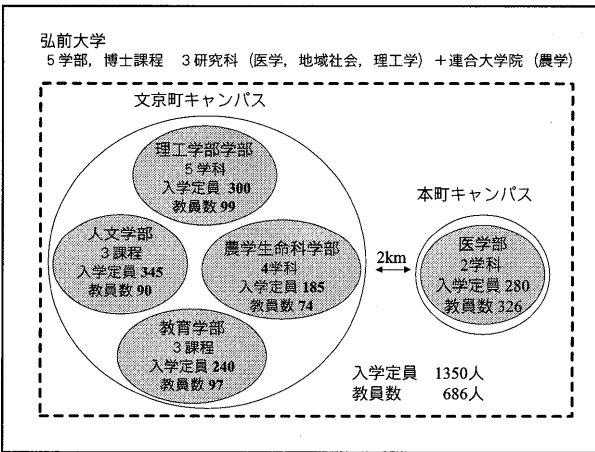
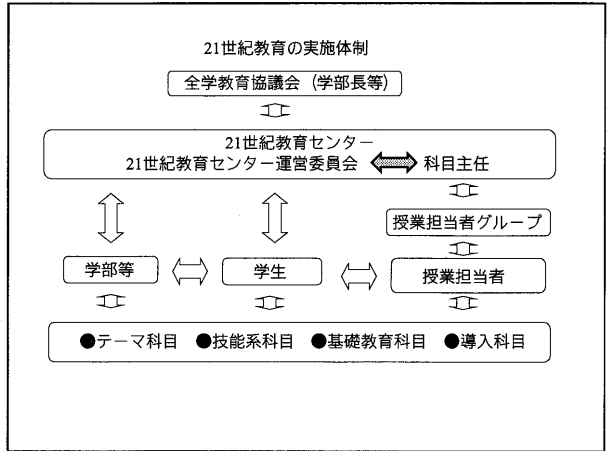
学生アンケートの項目は、多人数授業への意見、履修した授業科目の理解の程度、有益性、履修した授業科目で受けた成績評価の適切さ等である。

授業実施の報告項目は、授業計画との整合性、シラバスに掲載した設定目標への到達度、成績評価の方法と基準の参照の程度等である。また、科目主任は、授業担当者からの報告に基づく感想及び授業担当者との協議に基づく、次年度開講に向けての改善点等を報告することになっている。

これらの結果については、「21世紀教育センターニュース」、「21世紀教育活動・評価報告書」及び「ホームページ」などで学生及び教職員に周知するとともに、成績評価の方法と基準、教育課程、授業内容及び授業開講体制の改善に役立てている。

## 適正な成績評価を実施するための方策

弘前大学21世紀教育  
センター長 大関邦夫



21世紀教育における授業運営・担当評価

【趣旨】21世紀教育への授業運営への積極的な関与を促進するとともに、授業担当の濃淡に伴う不公平感を払拭し、21世紀教育を円滑に展開することを趣旨として、授業運営・担当評価を導入する。

【授業運営・担当評価の概要】  
授業運営・担当評価による評価対象者は、次のとおりとする。  
●科目主任 ●基準時間を超える担当者 ●カリキュラムの開発者

【基準時間】  
①言語コミュニケーション実習の科目主任の年間基準時間は、120授業時間とする。  
②スポーツ・体育実技の科目主任の年間基準時間は、90授業時間とする。  
③上記、①、②以外の教員の年間基準時間は、30授業時間とする。

【授業運営・担当評価に係る経費】  
21世紀教育の授業運営・担当評価は、評価対象者に校費を配分することにより行う。当該経費（21世紀教育推進費）については、全学的な理解の下に、教育研究基盤校費の中から確保（平成14年度約1,400万）。

【評価対象教員及び配分額の決定】  
点検・評価専門委員会の議を経て、センター運営委員会で決定する。

6

21世紀教育科目における成績評価の方法と基準について

全学の教員が参加しているため、評価の基準がまちまちになりがちであり、共通化した基準が必要となる。

同一科目で複数の授業が開講される場合が多く、科目内における評価基準の共通化が望まれる。

「公正な評価を受けている」と学生が実感できる評価システムが必要とされている。

平成14～16年度試行 → 実施状況の分析 → 平成17年度以降に恒常的な方法と基準を作成する予定。

9

テーマ科目・基礎教育科目

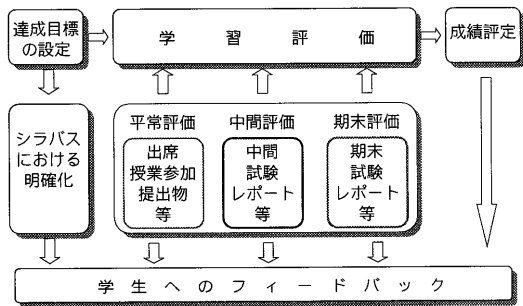
- 平均点が70～80点の枠内に収まるように、テキストの選定、授業内容、小テスト・レポートの評価基準、試験問題の難易度を検討し、工夫する。
- 60点以上の合格者において、「優」及び「可」がそれぞれ5割を超えないようにする。(努力目標)
- 同じ内容の授業科目で担当者が異なる場合には、授業内容の折り合わせを検討し、科目内でのバランスの調整・確保を図る。

言語コミュニケーション実習

- 平均点が73～77点の枠内に収まるように、テキストの選定、授業内容、小テスト・レポートの評価基準、試験問題の難易度を検討し、工夫する
- 「英語コミュニケーション実習I」  
共通テストを実施：通常評価70%、共通テスト30%

7

成績評価の概念図



10

情報処理演習

情報処理演習では、弘前大学での学習において最低限必要とされる情報リテラシーの達成度について評価を行う。⇒ 評価基準：80点

- 80点以上を与える場合
- (1) 理由のない遅刻や欠席がない。
  - (2) レポート等が期限内に全て提出されており、その内容が課題を満たしている。
  - (3) レポート等の内容が優れている場合には、20点の範囲で加点する。
- 60点以上を与える場合
- (1) 理由のない欠席がある場合には80点から減点する。
  - (2) レポート等の提出が期限より遅れた場合や、提示した課題を十分には満たしていない場合には、80点から減点する。
  - (3) 減点の結果、総得点が60点以上あれば、点数に応じて評価する。

8

全体に関する事柄

- 評価視点の複数化 ●平常評価 ●中間評価 ●期末評価
- 履修取りやめ制度 無断で履修・受験を取りやめた者 → 0点
- 授業への出席 出席が授業回数の2/3に満たない者 → 不可
- 成績評価状況調べ 授業担当教官は、全体の平均値、優、良、可の比率を報告 → 公表
- 答案・レポートの返却 中間試験・レポート → できるだけ返却・開示  
期末試験・レポート → 可能な限り返却・開示

11

スポーツ・体育実技

- 【平常評価：50点】  
自らが積極的にスポーツ活動に参加することを評価
- 【中間評価：20点（5段階評価）】  
受講態度や学習意欲に対する評価
- 【期末評価：30点（5段階評価）】  
スキルテスト・運動能力テスト・実技テスト等による客観的評価

芸術実技

- 【音楽実技】  
演奏実技試験(40点)、平素の習得度(40点)、出席(20点)
- 【美術実技】2人体制で行うため、各教員が50点満点で点数化  
制作の結果としての作品(20点)、制作過程(20点)、出席(10点)

12

**導入科目（基礎ゼミナール）**

平常評価：①出席、②授業中の活動  
 中間評価：③レポート・課題・発表等  
 期末評価：④レポート・課題・発表等

●①～④を総合して評価する基準を 80 点とする。

●出席状況、受講態度、授業中の活動、レポート・課題・発表等への取り組み、内容・構成の論理性、結果の妥当性、表現力等に基づき、基準点に加点または基準点から減点する。

●加点・減点の比率を①～④にどのように割り振るかは、担当者に委ねる。

15

平成14年度前期21世紀教育「成績状況調べ」と平成13年度前期共通教育科目成績評価状況との比較

基礎教育科目（文化系基礎・社会系基礎）

	「成績状況調べ」 回答数80	共通教育「教養科目」 開講数87
評定平均値の範囲	70～80点： 80% 80点より高い：11.3% 70点より低い： 8.7%	70～80点： 58.6% 80点より高い：18.4% 70点より低い：23.0%
優・良・可・不可の仕事	優： 39.4% 良： 32.7% 可： 19.3% 不可： 8.6%	優： 42.5% 良： 27.3% 可： 20.4% 不可： 9.8%
評定平均点の最高と最低	最高点：91.0 最低点：60.2	最高点：88.4 最低点：46.1
履修放棄者数	189名（6749名の2.8%）	1046名（11.5%）

13

授業担当実施報告書

設問項目		14年度		15年度	
		前期	後期	前期	後期
授業計画との整合性	授業計画どおり授業を実施した	83%	81%	85%	85%
	授業計画の7割程度授業を実施した	16%	18%	14%	14%
	授業計画の5割程度授業を実施した	1%	1%	1%	1%
	計	319人	228人	476人	221人
設定到達度と学生の成績結果について	8割程度の学生が期待した基準に達した	77%	83%	83%	64%
	5割程度の学生が期待した基準に達した	21%	15%	16%	35%
	3割程度の学生が期待した基準に達した	2%	2%	1%	1%
	計	321人	225人	466人	220人
成績評価について	「成績評価の方法と基準」を参照したある程度参照した	68%	67%	76%	71%
	ほとんど参照しなかった	28%	29%	21%	26%
	計	321人	229人	468人	218人
	その他設問 担当授業科目名、履修学生数、休講の有無とその対応措置				

16

平成14年度前期21世紀教育科目授業登録数等状況一覧

授業区分	授業科目登録数	単位取得数	成績状況 (%)				履修放棄者 (%)
			優	良	可	不可	
言語コミュニケーション実習	4.0	3.6	41.9	30.5	21.7	5.8	2.6
スポーツ・体育実技	0.6	0.5	50.8	40.3	8.9	0.0	7.2
芸術実技	0.0	0.0	72.4	24.1	3.4	0.0	3.3
情報処理演習	1.0	2.0	71.6	19.5	7.5	1.5	1.0
基礎教育科目	4.9	8.8	40.0	32.6	19.3	8.1	2.8
導入科目	1.0	2.0	80.5	16.6	2.8	0.0	0.9
21世紀教育科目	11.5	16.9	47.5	29.7	17.1	5.7	2.6

注1 「授業科目登録数」及び「単位取得数」は学生1人当たりの数  
 2 「成績状況」の優・良・可・不可の比率には、履修放棄者を含まない

14

平成14年度前期21世紀教育「成績状況調べ」と平成13年度前期共通教育科目成績評価状況との比較

英語コミュニケーション実習

	「成績状況調べ」 回答数96	共通教育「教養科目」 開講数81
評定平均値の範囲	73～77点： 74% 77点より高い：12.5% 73点より低い：13.5%	73～77点： 35.8% 77点より高い：27.2% 73点より低い：37.0%
優・良・可・不可の仕事	優： 39.7% 良： 33.9% 可： 21.6% 不可： 4.8%	優： 41.7% 良： 26.8% 可： 24.9% 不可： 6.5%
評定平均点の最高と最低	最高点：90.0 最低点：67.6	最高点：94.2 最低点：57.9
履修放棄者数	62名（2649名の2.8%）	425名（16.2%）

17

英語コミュニケーション実習

設問：入学時の習熟度別クラス編成についてどのように考えますか。

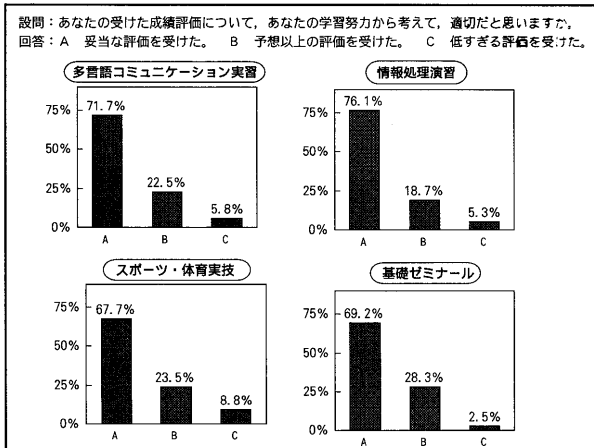
設問：あなたはどのレベルにクラス分けされましたか。そのレベルは、あなたの英語力から言って、適当なレベルでしたか。

設問：英語コミュニケーションで受けた成績評価について、あなたの学習の努力から考えて、適切だと思いますか。

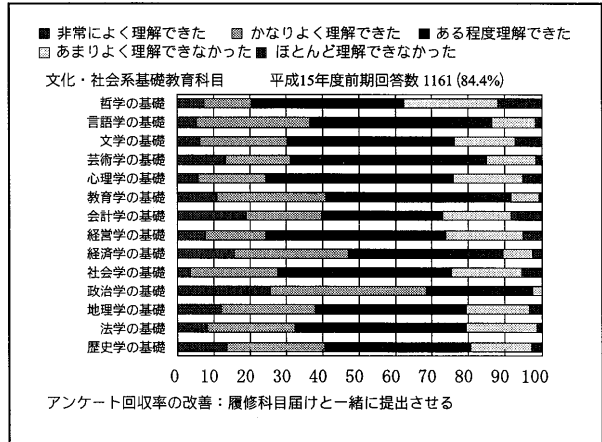
A 適切なレベルであった。  
 B 高すぎるレベルであった。  
 C 低すぎるレベルであった。

A 妥当な評価を受けた。  
 B 予想以上の評価を受けた。  
 C 低すぎる評価を受けた。

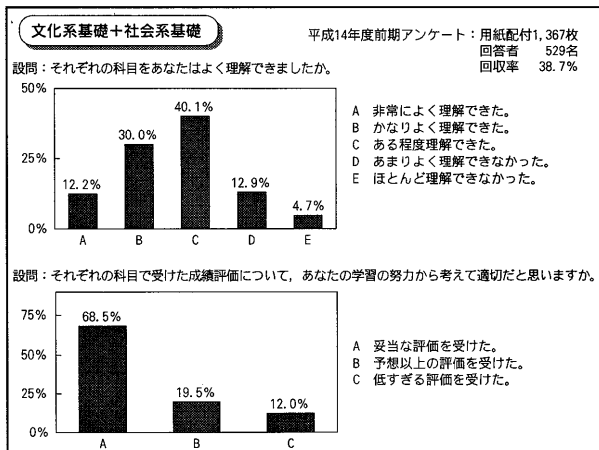
18



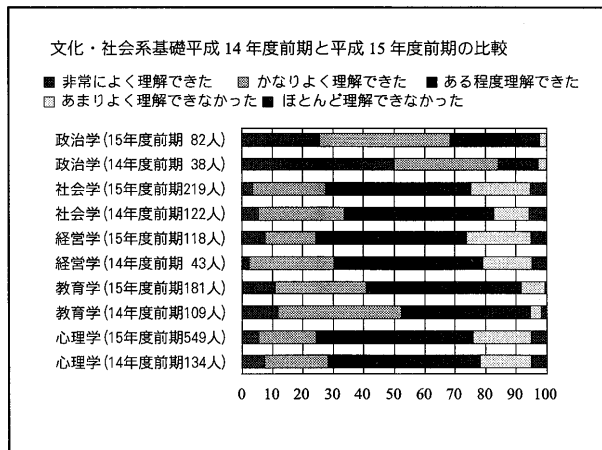
21



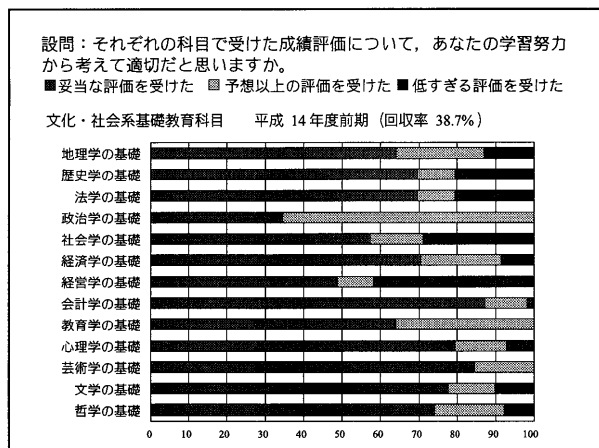
19



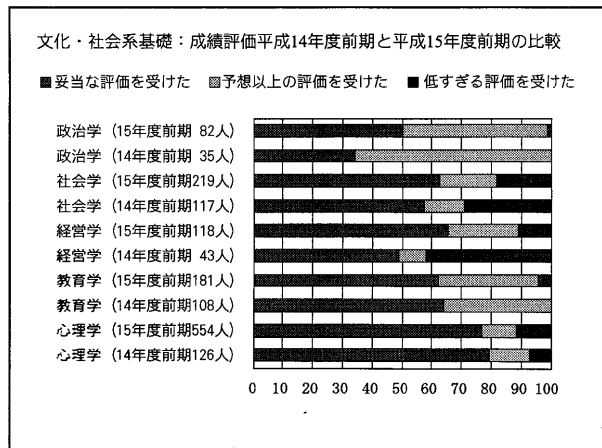
22

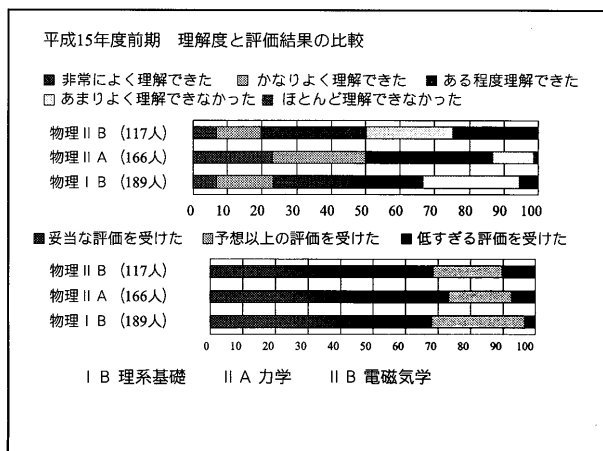
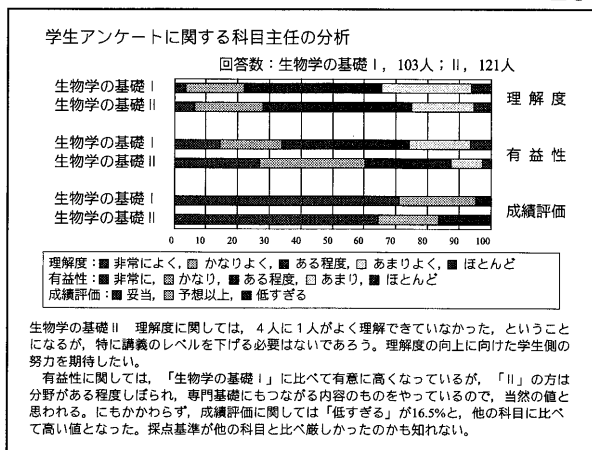
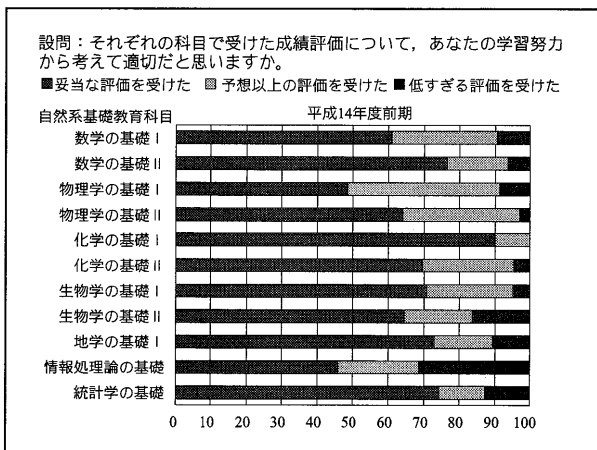
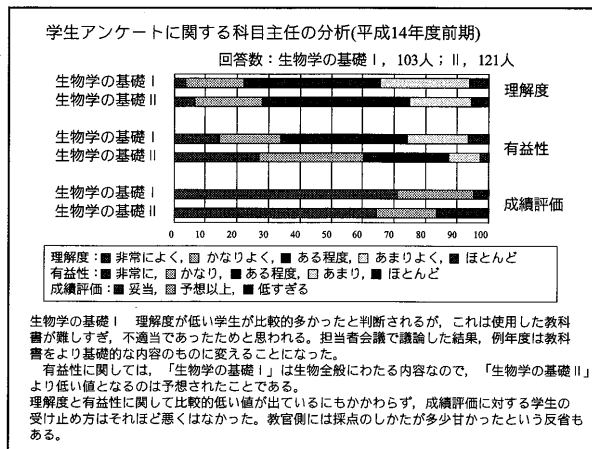
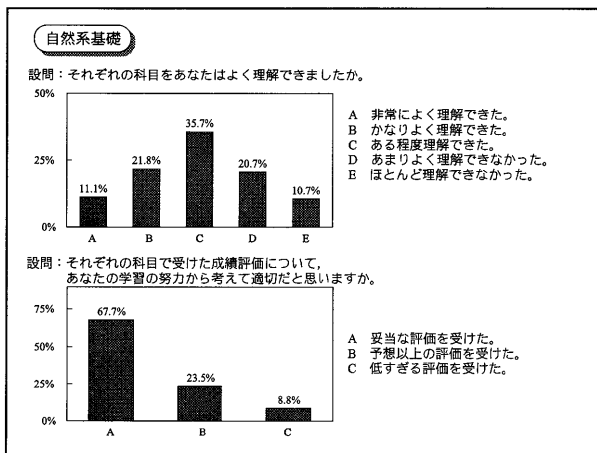


20



23



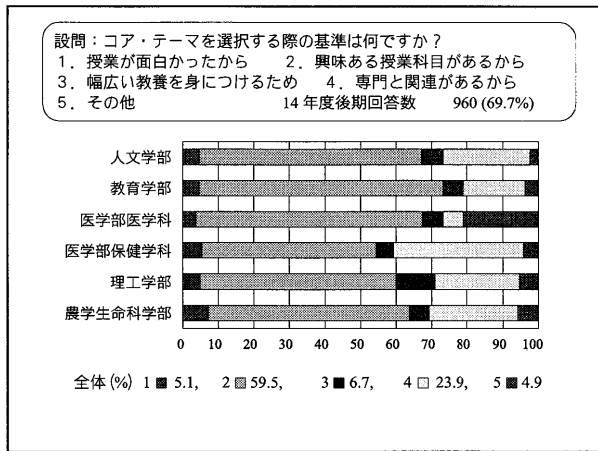


テーマ科目：「幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する」ことを目的とする教養教育の根幹をなす科目

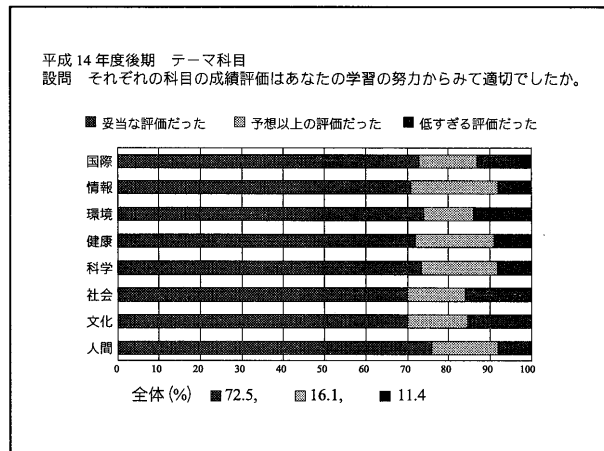
- 8領域：国際、情報、環境、健康、科学、社会、文化、人間
- 1年次後期から履修
- 1領域から4科目(コア領域)、その他の4領域からそれぞれ1科目計16単位の修得を課す
- 授業科目

領域	15年度開講数			16年度開講数		
	前期	後期	計	前期	後期	計
国際	1	1	2	1	1	2
国際社会の現在	1	3	2	3		3
世界の地域・国・民族	1	1	1	1		1
紛争と平和を考える	1	1	1	2		2
国際文化の展開	1	0	1	1		1
国際協力と国際交流	1	0	1	1		1
研究・教育から見た世界と日本	1	1	1	2		2
小計	6	7	13	8	10	18
テーマ科目計	58	66	124	57	72	129

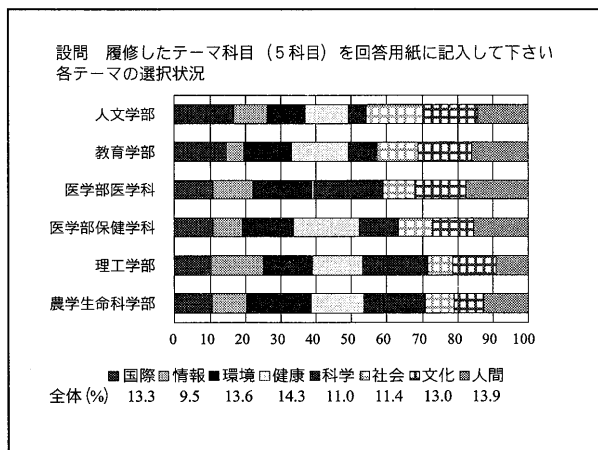
30



32



31



33

相対評価 選抜試験  
 集団の中の個人の位置付け  
 カープ評価：1つの集団の学業修得の程度を基準にした段階的な成績評価法。その集団の中で比較的よい成績の者は、その教科の理解の程度に関係なく、よい点をとる。

絶対評価 資格認定試験  
 個人の学力が一定の基準に達しているか否かの評価

21世紀教育における評価  
 絶対評価+相対評価  
 60点以上を合格とする  
 優80点以上、良70~79点、可60~69点

正規分布  
 平均値75点、標準偏差10点の場合  
 60点以上 93.3% 60点未満 6.7%